

日本株ファンドマネージャーの視点 『ESG投資で大事なこと ～収益・日本の課題・客観性～』

株式運用第一部 上石 卓矢



はじめに

学生の就職活動が本格化しています。私が10年前に就職活動をしたときは、すべての会社の志望動機に「日本の発展に貢献したい」と書きました。というのは、私が通っていた大学のあらゆる授業で教授が日本の将来を危惧していたからです。就職活動中には150社以上の話を聞きましたが、どこで働けば日本の発展に貢献できるのか分かりませんでした。そこで、まずは日本の将来に関する情報が一番集まる場所に行こうと思い、日本株運用に強い資産運用会社に入社しました。

色々な専門家や経営者の話を聞くにつれて、日本最大の課題は人口問題だと考えるようになりましたが、資産運用会社で社会問題を扱うことは難しく、社外で勉強会や講演会を開催してきました。ところが、ESG（環境・社会・ガバナンス）という大波が資産運用業界に訪れたことで、現在では会社の仕事として社会問題に取り組み、ESG投資がどうあるべきかを考えています。

ESG投資で大事なこと

私がESG投資で大事だと思うのは、「収益」、「日本の課題」、「客観性」、の3点です。

2007年ごろに環境ファンドが流行りましたが、このブームが終わってしまった一因は、環境が単なるテーマとして扱われ、リターンをどう確保するのかが不明瞭だったためだと考えています。そこでESGファンドを一過性のテーマ型ファンドにしないためには、(1)ESG課題解決に資する本業の利益成長、(2)ボトムアップリサーチと基準株価法による割安株の発掘、(3)エンゲージメントによる企業価値の向上、が大切だと考えています。

ESGファンドというと、外資系格付け会社のレーティングやESGへの取り組みの評価としてSDGs（持続可能な開発目標）の各目標への関与を用いることが多いですが、これだけでは日本の課題が抜け落ちてしまいがちです。

ESGファンドに興味を持った場合には…

ESG投資は客観性の確保も大切です。もしファンドマネージャーが極端な社会問題意識を持っていた場合、顧客の望まないESG投資が行われる可能性があります。そのため、ファンドマネージャーの個人的な社会問題意識や政治思想が過度に入り込まないように、客観的にESG課題を定義する必要があります。

最近の決算では、日本ユニシスや横河電機などが企業理念から事業戦略までESGに十分配慮した素晴らしい

中期経営計画を発表しています。このような企業を模範として、ESGを意識した経営や投資が今後ますます増えることでしょう。そうした中で、もしESGファンドに興味を持った場合には、「収益の源泉は？」「日本の課題をどう盛り込んだ？」「客観性をどう確保した？」という3点を意識してみたいかがでしょうか。

※このレポートでは、日本株ファンドマネージャーが注目しているトピックなどを毎週お届けします。

■当資料は情報提供を目的として大和住銀投信投資顧問が作成したものであり、特定の投資信託・生命保険・株式・債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料に記載されている今後の見通し・コメントは、作成日現在におけるレポート作成者の判断に基づくものであり、事前の予告なしに将来変更される場合があります。■当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。■当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

資産運用のベストパートナー、だいわざみぎん



大和住銀投信投資顧問

Daiva SB Investments

大和住銀投信投資顧問株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第353号
加入協会 一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会